

「生き方によって選びを示す 同じ心構え」

I ペテロ 4:1-11

■ 罪に気づかされる時

ある晩餐会で、出席者の婦人がダイヤモンドのついたナイフとフォークを魔がしてカバンの中に入れてしまいました。それを見ていた主催者の大富豪は面前で恥をかかせるのではなく、出口で警備員に裁かせるのではなく、寛容な心でその人の人生をも考え、突然に「みなさん、私は最近手品を学びました。今このナイフとフォークを瞬間移動させます。」と言ってから「あのご婦人のカバンの中に入っています」と言われ、その婦人はハッとしたはずです。この婦人は大衆の前で裁かれることなく、赦されることを通して、二度とこのようなことは繰り返さなかったと思うのです。私たちが人生の終わりに神様の前に立たされて裁かれるのではなく、イエス様ご自身が十字架にかかれることを通して人の愚かさや罪を気づかされたのです。

私たちは今「生き方によって選びを示さない」と言われています。もう一度、あなたがどうやって生きているか、人と向き合っているかを考えてみてください。私たちがどうやってその人を赦すのか。どうやってその人が赦されたことを知るのかということが、人を愛する最大のテーマなのです。

■ 自由人としてどうふるまうのか？

ノリタケの創業者である森村市左衛門は、ニューヨーク支店に出張に行った際、ある一人の社員に目を留めました。誰もいない薄暗い地下室でその社員は一生懸命仕事をしていました。それから一年後またニューヨーク支店に行くのと前と変わらず懸命に仕事をしていました。森村は感心しその社員に話しかけ、彼がクリスチャンであることを知りました。の忠実で模範的な勤務態度を見て興味を持ちクリスチャンになったという話があります。私たちは立場の上の人を変えることはできないと思っている人が多いのですが、私たちの行いが美しければそれを変える大きな力があるのです。

「従う」(13)「敬う」(17)「愛する」(17)「尊ぶ」(17)。この4つの事をすべて行うことが自由人としてふるまう為にとっても大切です。そうして私達は「道を整える役割」を担っています。(I ペテロ 3:8,9) また、感情的になった時、心にもない事(偽りの言葉)を言わない決断を舌を制しましょう。恐れを取り去り正しい良心を持って弁解が出来る準備しなさいと言われていました。ここまでが前回までのおさらいです。

■ 「マイケルと月」

みなさんは、「マイケルと月」というお話を知っていますか？これは、人類が初めて月面着陸を果たした時のお話です。この歴史的な瞬間はテレビで放送されました。1969年当時、世界人口の5分の1にあたる日人がその様子を見守ったと言われています。実際に月に降り立ったのは、ニール船長とバズでした。マイケルは同じ宇宙飛行士として月に向かいましたが、二人が月面で過ごした21時間以上の間、マイケルはたった一人で司令船の中で任務を遂行し続けました。月面着陸という歴史的な瞬間にメンバーだったのにもかかわらず月面を歩くことが出来ませんでした。しかし彼は自分の事のように友の成功を喜びました。その彼の人となり、米国が「真の開拓者」と認める人物として、今も語り継がれています。

皆さんはどうでしょうか？マイケルのように素直に友の成功を喜んだ経験はありますか？もちろん、喜べる時もありますがそうでない時もあります。それは私達の心の中には善と悪があるからです。つまり喜ぶものと裁くものが共存しているのです。

■ 「もう十分です」(I ペテ 4:1-11)

そんな私達は悪魔にいつもふるいにかけられていることを知しましょう。この4章はルカ 22:29～38 (ペテロ自身の過去の罪から学んだこと)を連想して書かれています。『シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のふるいにふるいにかけることを願って聞き届けられました。』(ルカ 22:31)「ふるわれる」とはまともに考えられない程にふるわれるという事です。悪魔は私達が冷静に考える事が出来なくなるような事を仕掛けてくるというのです。私達の弱さをついてきます。ペテロもそうでした。悪魔にペテロの弱いところをつかれてイエス様を「知らない」と3度も言ってしまったのです。そして復活のイエス様がもう一度現れた時、その罪に対して『イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか」と言わ

れたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」(ヨハ 21:17)と自らの罪の結論を告白するに至ります。ペテロの人生はここから回復していきます。逃げることを止め、地上での命が終わるその時まで主に従うものとなったのです。ルカ 22 章の時のペテロ達はイエス様が伝えたい事の意図が組めず、イエス様から「もう十分です」(この話は終わり・話しても無駄)と言われます。(ルカ 22:38)しかし、自分の罪の結論を自らで行った後のペテロは既に理解しており、同じ言葉を使ってイエス様の意図を伝えていきます。繰り返してしまっている「弱さ」を「もうやめよう」「もう十分です」と伝えているのです。(I ペテ 4:1-3)

■ 「同じ心構え」(I ペテ 4:1-11)

「同じ心構えで自分自身を武装しなさい」とは自分の弱さに対して武装することです。そして「肉体の痛み」というのは、「こんなわたしが赦された。」という「赦された痛みです。」その痛みを知ったのなら、もう弱さを繰り返すことを止めましょう。あなたが決断し行動することが「武装」なのです。

■ 失敗を通し赦しを教えられるイエス様

イエス様は彼らに失敗させることで彼らに赦されたことを教えました。ペテロは三度知らないと言った事がバレたことではなく、「主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。」と裏切りの始末をつけ、罪を犯し悪かったとイエス様の前に出た時に赦されたことです。今、イエス様はペテロの時のように私たちの目の前には現れません。しかし、私たちが気付くまで待っていてくださっています。

■ 「神のみこころのために過ごす」(I ペテ 4:1-11)

イエス様はそんな私達のためにとりなして下さっています。そして立ち直ったら兄弟たちカブけてやりなさいと言われていました。(ルカ 22:32) 神様を知らない人たちに、1日でも早くあなたを通して変化をもたらさなければなりません。「それはその人々が肉体においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神によって生きるためでした。」ペテロも肉体においてさばきを受けました。そして、霊において生きられるようになりましたと言っているのです。

『万物の終わりが近づきました。(エンギゾー「すでに近づいてしまっている、もう来てしまっている」「来てはしまっはいるが、いまだ終わりではない」それが今の時代です。)』ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。つぶやかないで、互いに親切にもてなし合いなさい。それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。』(I ペテロ 4:6～10)

さいごに

ソルトレイクオリンピックのショートトラック競技でブラッドバリー選手は世界ランク 35 位でありながら四度の奇跡で優勝しました。クリスチャンの人生はまさにこれなのです。イエス様に添えられたあなた。添えられたものとして備えをしようではありませんか。「失敗したけれどわたしはイエス様について行く」という、からしだねの信仰で良いのです。「わたしはあなたに恵みを与えた。その恵みはあなたに十分である。」「あなたは武装しなさい。」と神様は言うてくださっています。人を裁く人生をやめて、「自分は罪人の頭です、もうその罪を繰り返すのをやめました。」と言って過去の自分の弱いことを思い起こしてもう繰り返さないように決断しましょう。罰を受けるより優しく赦されることの方が一番苦しいのではないのでしょうか。それが私達の痛みです。だからもう繰り返してはいけません。イエス様はあなたの為に犠牲になり私達に赦しと永遠のいのちを与えて下さったのです。だから私達は美しく生きることができるのです。

(要約者:澤口 建樹)

(2021年5月30日)